

## みどりの里親活動Ⅱ

11月2日（火）酒田市宮海字新林の西荒瀬保育園の年長組を対象とした「みどりの里親活動Ⅱ」（採取した種及び育てた苗の植付）を実施しました。

酒田地域は冬型前線が通過中で冷たい雨が降る不安定な空模様でしたが、当日は園児達の願いが届いたのか、今まで降っていた雨もあがり、くもり空で少し寒さを感じる天気でした。

「みどりの里親活動Ⅱ」には年長組園児 38 名、保育園先生 3 名、朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター 4 名、庄内森林管理署 1 名、総勢 46 名で種及び苗の植付作業を行いました。

保育園玄関前に用意したブルーシートの特設会場において、先ず、木製プランターづくりを行いました。年長組の園児達が7班に分かれて行うことになり、各班の班長には、当センター職員や庄内森林管理署職員、年長組の保育園先生が当たりました。木製プランターづくりでは園児達は木の板をパズルのように扱い、ああでもない、こうでもないなど言葉が交わされた後、班長の指示で釘打ちにチャレンジしました。なかには金槌の使い方に不慣れな園児もいましたが、班員みんなの協力と励まして、立派な木製プランターが完成しました。次に、完成したプランターに土を入れる作業を行いました。入れた土を園児達の可愛い手で押し固め、その上に10月13日に鳥海山で拾ってきた森の宝物（ミズナラ、コナラ、ヤマグミ等の種）を蒔きました。その上に更に土をかけ種まきが完了しました。種まきを終えた園児達は、春に芽を出して大きく生長することに願いを込めてお祈りをしました。

さらに、昨年度に種まきをし、水かけや草取りをして精根込めて育てたブナ、ミズナラ、サワグルミ、ツバキ等の苗の植付に挑戦しました。植付場所は「しんちゃん森」の南側の保育園に隣接している場所を選定し、保育園児が眺め易い所にしました。植付作業は園児達が二人ずつペアを組んで行うことになり、どんな樹種を植えるかは、二人で相談して、苗木と関わった思い出のある苗としました。園児達は、二人ペアになり、苗木選定に意見を交わし合っていました。選ばれた19本の苗は、あらかじめ掘られていた植え穴に二人ペアになった園児達が土を植え穴に戻し、苗木の根を広げて置き、更にその上に土をかけ、苗木の根元を4つの手が押し固め苗木の根が「しんちゃん森」の土地に馴染みました。ここでも、園児達は苗木が大きく生長するようにお祈りを行いました。

園児達の優しい手で植付した種、苗木に届き、来春には、種や苗木から新たな芽を出して生長することを参加者全員で思い作業を終了しました。

